



認定NPO法人
まちづくりスポット恵み野

あなたへ届ける



Special Love Letter

2025年度 活動報告書

2025年4月1日～2026年3月31日

認定NPO法人
まちづくりスポット恵み野
キャラクター



こまめちゃん



認定NPO法人

まちづくりスポット恵み野

当法人は人と人をつなぎ、地域の困りごとと一緒に解決していく拠点です。地域の人や団体、企業などが集まり、「やってみたい」「地域のために活動したい」という思いを形にするお手伝いをしています。

民間企業「大和リース株式会社」と市民活動を支える「NPO法人えにわ市民プラザ・アイル」が協力し、地域コミュニティを元気にすることを目的として設立されました。

設立沿革

2015年（平成27年4月10日）

非営利活動団体まちづくりスポット恵み野として団体設立

2015年（平成27年9月2日）

特定非営利活動法人まちづくりスポット恵み野として法人化

2020年（令和2年6月8日）

指定特定非営利活動法人として恵庭市から指定取得

2022年（令和4年3月22日）

認定特定非営利活動法人として北海道から認定取得

◎目指すまちづくり

Mission

誰もがずっと幸せに暮らせるまちづくり

当法人は市民の身近な存在として市民活動に参加しやすい環境を整え、地域住民や市民団体、企業などそれぞれが持つ課題の解決を進め、人々をつなぐコーディネートをし、人材育成に寄与するとともに若者世代へも創造体験活動のきっかけを提供することをミッションとしています。



Vision

well-being

well-beingのためには、30年後のまちが今より豊かで幸せに暮らせるまちであることが必要です。

誰もがずっと幸せに暮らすまちを目指し、何をすべきかを考え、行動するNPOでありつづけます。

Value

日々の活動の基盤となる3つの価値観は、活動を続けていく中で大切にしている考え方です。様々なセクターが集まり、立場を超えた対話の場を作る事。連携や協働の基盤となるよう、人と人をつなぐこと。全ての年代にアクションを起こし、地域が成長するためのサイクルをつくることをバリューとして掲げています。

場をつくる

立場の違う人同士が、安心して話せる場をつくります。



人をつなぐ

人と人をつなぎ、新しい協力や活動が生まれるよう支えます。



サイクルをつくる

子どもから大人まで、世代をこえて地域が成長し続ける仕組みをつくります。



◎事業分野

Missionを事業化するためのプロジェクトを5つの事業分野に分類しています。

まちづくりの推進に係る事業

- ① 花のまちづくり推進
- ② 子どもの生活・学習支援
- ③ フードバンク
- ④ 防災
- ⑤ 対話によるまちづくり

交流スペースの利用促進に係る事業

自主事業（イベント開催）
貸館業務、備品レンタル
コピー、ラミネート

まちづくりに関わる広報活動に係る事業

ホームページ、SNS発信
ラジオ、公式LINE
広報誌Love Letter発行



まちづくりに関わる

ネットワーク作りに係る事業

- ① 子育て支援（mamacafe）
- ② シーニック
- ③ 相談業務
- ④ その他機関参画

人材育成及び研修に係る事業

- ① 講座開催
- ② 研修参加
- ③ 若者の人材育成

2025年度の活動を終えて

今年度は、すべての事業において「孤独・孤立対策」を重要な視点として位置付けました。地域社会におけるつながりの希薄化や子ども・若者・高齢者を含む幅広い世代の孤立が課題となる中、「誰かと緩やかにつながれる場」を地域の中に増やすことを意識し、居場所づくりや対話の機会創出に取り組みました。単に支援を提供するのではなく、一人ひとりが地域との接点や役割を持ち、「必要とされている」と感じられる関係性づくりを重視した一年でした。

代表理事挨拶



代表理事
久保 純一

2025年度も、多くの皆さまのご尽力と温かいご支援により、さまざまな事業を実施することができました。心より感謝申し上げます。

私は2026年6月より代表理事を務めております。本報告書では、2025年度の活動をご報告するとともに、当法人が掲げるVision「Wellbeing」の実現に向け、これまで培われてきた理念を大切に受け継ぎながら、多様な人々がつながり、支え合える地域づくりを進めてまいります。

今後も、地域に必要とされる法人を目指し、皆さまとともに歩んでまいります。引き続き、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

交流スペースの利用促進に係る事業

自主事業（イベント開催）

5月11日、交流スペース「まちスポ恵み野」で「昔あそびひろばブンブンコマをつくろう」を実施しました。恵庭市青少年育成補助金を活用し、昔遊びを通して子どもたちの創造性を育むとともに、学生ボランティアとの交流を図ることを目的に行いました。親子で協働して行うことで家庭内のコミュニケーションを深め、文化的な体験を共有する場を提供することができました。参加者は画用紙に好きな絵を描いたりシールを張り付けるなどしてオリジナルのコマを作製しました。その後、学生ボランティアと一緒にお菓子すくいを体験し、ボランティアは人と関わる楽しさを実感し、成長の機会を創出しました。当法人がValueの一つとして掲げる「地域が成長するサイクルづくり」を学生ボランティアが子どもたちの交流を通して実現することができました。（参加者44名）

また、コピー・ラミネート機器利用の開放により、来館を通じて当法人の活動を知っていただくことができました。来館時にパンフレット配布による周知活動に取り組んだことで認知度向上、利用者増につなげることができました。



貸館業務、備品レンタル

当法人内には市民や企業、団体等へ気軽に集い、やってみたいを実現できる場、交流できる環境づくりのために交流スペース「まちスポ恵み野」の貸出を行っています。地域活動の拠点として会議、打ち合わせ、イベント、講座、ワークショップなどに活用され、今年度も様々な利用会員の皆様にご利用いただきました。貸館を通して地域内の新たなつながりやコミュニティ形成につなげることができました。

さらに、フレスポ恵み野商業施設内に事務所を構えている特性を活かし、利用会員の皆様が施設内で行うイベントや展示等で使用する備品のレンタルも実施しています。単発的なイベント支援にとどまらず、「地域で何かを始めてみたい」「自分の活動を形にしたい」という市民の思いに寄り添いながら、地域活動への参加や実践につなげ、市民同士の関係性を育み、継続的な関わりを通して新たな協働の形へと発展させることができた一年でした。

今年一年の実績については下記をご覧ください。



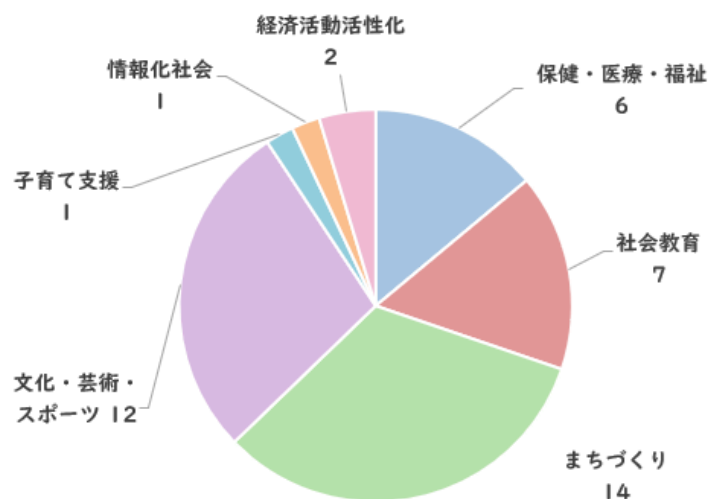
活動を数字で見る（2025年度 延べ人数）

来館者数	5223件	備品レンタル利用数	23件
利用会員数※	43団体	コピー・ラミネート利用数	21件
貸館利用数	30件		

※利用会員とは

交流スペース「まちスポ恵み野」の利用と備品レンタルをすることができます。会費無料で個人・団体問わず、どなたでも利用登録することが可能です。

2025年度 分野別利用団体



まちづくりの推進に係る事業

① 花のまちづくり推進事業（みんなのガーデンプロジェクト2025）



今年度はフレスポ恵み野商業施設前に広がるコミュニティキッチンガーデン「めぐみの丘」の管理を株式会社サンガーデンへ委託しキッチンガーデンの土壌を整える機会としました。そのため、例年実施していた環境教育講座の開催は見送り、次年度以降の充実に向けた改修として、レイズドベッドの設置や病気樹木の伐採を行いました。

また、花をきっかけに地域交流を図る目的で9月7日は地域や学生のボランティアと協働して「アナベルボールブーケ作り」を開催しました。（参加者40名）3月4日には「花や野菜が好きな方集まろう会」を開催し、来年度の取り組みについて、花や野菜に関心のある方と意見交換を行いました。（参加者5名）地域の方と協働してキッチンガーデンを管理・運営することで、花のまちづくりを担う人材の確保や育成に寄与することができます。

そして、恵庭の花のまちづくりを象徴する「恵庭花とくらし展」や「花と緑のまちづくり講演会」の企画・運営に参画し市内の花のまちづくり団体と連携して花のまちづくりの推進につなげることができました。

こうした活動を通じて、地域住民や子どもたちが「めぐみの丘」で自然や地域資源に触れ、多世代交流を深める場となり、環境教育や地域への愛着の形成にもつながりました。



② 防災啓発事業

2018年ブラックアウトの経験を糧に立ち上がった防災啓発事業は市民の皆様とともに防災について学ぶ場をつくり、災害中間支援組織としていざという時に助け合えるネットワークを広げる活動を続けてきました。

1月18日に実施した「mamacafe×防災」では乳幼児を育てる保護者が気軽に参加できる場づくりを通じて、家庭での備えや非常時の行動を学ぶことを目的に、恵庭市基地・防災課の出前講座を活用して防災意識の啓発を行いました。（参加者15名）災害時に必要な物資の選び方や子どもの安心を守るための声かけ、地域で助け合う仕組みなどを座学と体験形式を交えて学び、子育て世帯の防災意識向上に寄与しました。

また、恵庭市災害時ボランティアセンター連絡会議への参加や北の国災害サポートチームへの参加を通して学びを増やし、ボランティアネットワークやフードバンクシステムの活用を円滑にできるよう各所との連携を図っています。今後も、地域ネットワークの確立を進め、地域の安全と住民一人ひとりのWellbeingの向上に貢献してまいります。



③子どもの生活・学習支援事業



恵庭市えにわっこ応援センターからの委託事業「smileハウス」では、学習機会の創出、生活習慣の習得、食事支援を通して子どもたちの安心して過ごせる第三の居場所づくりを実施しています。毎週土曜日のお昼に交流スペース「まちスポ恵み野」および屋外での活動を行い、今年度は48回開催しました。経済的事情や不登校傾向など多様な背景を持つ子どもが参加し、地域ボランティアや大学生、高校生の学生ボランティアとの関わりを通じて、人とのつながりや多様な価値観に触れ自立や社会性を育む機会となっています。保護者からも「安心して通える場所が支えになっている」との声が寄せられました。

この事業を通して学生ボランティアが主体となり子どもたちの見守りや勉強の指導、外出時の引率を通して社会性を身に付け、当法人のMissonである若者世代へも創造体験活動のきっかけを提供しました。

今年度の成果は、過去に参加した子どもが高校進学後に学生ボランティアとして再び本事業に関わる姿も見られました。「ここに居場所がある」「社会とのつながりや地域の役に立っている」と感じられることは孤独・孤立対策としても重要な意味を持ちます。今後も地域の方と協力して社会とのつながり、安心を感じられるような居場所づくりを目指していきます。



④フードバンク事業



フードバンク事業

恵庭市より食品ロス対策事業補助金を受け、設備と運営体制の充実を図り、地域の食支援体制強化と食品ロス削減の推進に取り組みました。企業や個人から約3,667kgの食品（野菜915kg、米218kg、その他食品2,534kg）と多数の日用品の寄付を受け、安定的な食品や日用品の確保を実現しました。これらは連携する食支援団体にも提供され、必要な方々へ支援が届く仕組みを整え、地域全体の支援網強化に寄与しました。当法人事務所隣にある道内初の24時間利用可能なフードバンク施設「コミュニティフリッジ恵庭」は、開設から1年以上が経過しました。24時間利用可能な冷凍・冷蔵設備を備えた無人運営を継続しており、現在も多くの見学者が訪れています。恵庭市の協力により、対象である市内在住の児童扶養手当受給世帯や就学援助受給世帯への周知が進み、多文化共生の観点から市内在住の外国人技能実習生の利用登録も進んでいます。

また、条件を満たす市外の利用者や団体への提供も行い利用者からは食の確保に加え、孤立感の軽減や安心感の向上といった心理的効果も確認されています。フードバンク事業は寄付者の善意とボランティアの協力に支えられ、地域・企業・行政との協働を深め、持続可能な支え合いの基盤形成に貢献しました。



フードパントリー

今年度は地域の方や企業団体の皆様からご寄付いただいた食品、日用品を生活に困窮している家庭へお渡しする「フードパントリー」を3回実施しました。（7月13日 参加者88名、12月21日 参加者49名、3月8日 参加者53名）

物価高の影響や経済的な事情で十分な食事を取れない子どもがいる家庭へ政府備蓄米の無償交付も申請し、交付を受けた備蓄米と合わせて食料品の無料配布会を開催しました。食品の提供が家計負担の軽減につながるだけでなく、子どもたちの笑顔や保護者の安心感につながっていることが窺えました。参加者を対象にアンケートを実施したところ、「生活に困っており、ご寄付いただきありがとうございます。」「お菓子やジュースが入っていて、子どもが喜んでいました。」など、多くの感謝の声が寄せられました。地域のボランティアにも食品の袋詰めや見守りなどのご協力をいただきました。

これを機に、子育て世帯との接点が増え、これまでコミュニティフリッジ恵庭の対象から漏れていた世帯の把握及び支援にもつなげ、フードバンクの存在を広く周知することができました。食品などの寄付も増加し地域で支援の輪を広げる大きな一歩となりました。今後も定期的開催し、必要とされている方のサポートを継続してまいります。



⑤対話によるまちづくり



恵庭市教育委員会と協働事務局を持つコミスクPLUSは学校と保護者、地域住民が熟議を通して地域の子どもたちの成長を支える話し合いの場「コミスクかふえ」を継続実施しています。今年度は8月5日「関係性を育むチームづくりとは」（参加者40名）、1月21日「町内会の子ども育成部の活動を聞いてみよう」（参加者38名）の2回実施しました。市内各校のコミュニティスクール関係者、地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）、教職員、保護者、地域住民等が立場を超えて対話できる場を設け、各校の実践共有や課題の可視化を進めました。市内全体で学び合うネットワーク形成を進めたことにより新たな連携や協働のきっかけも生まれました。コミュニティスクールを制度として運営するだけでなく、「地域全体で子どもの育ちを支える文化」として根付かせることを重視した取り組みとなりました。

また、実施したコミスクかふえ内で「コミュニティスクールの推進には地域コーディネーターの設置が必要」との声が多く聞かれ、今年度は市内の地域コーディネーターが増員されました。多様な市民の意見を行政へつなげることができた大きな成果となりました。

そして、市民ファシリテーション講座の開催や修了生の組織化という経験から、北海道立市民活動促進センターの地域の対話を支える新たな担い手である「市民ファシリテーター」に関する調査研究に協力しました。調査結果は広く市民へ報告され、次年度も継続調査される予定です。



まちづくりに関わるネットワーク作りに係る事業

①子育て支援

mama café



今年度も地域のママで構成されたお下がり交換会の実行委員会である「つなぐme」と協働で、6月5日「まちスポ恵み野お下がり交換会withつなぐme」を開催しました。活動人数の減少により、つなぐmeと今後の事業の在り方を話し合う中でフリーマーケットへの転換が協議されました。そこで10月15日、2月27日は「つなぐmeのフリーマーケット」が実施されました。フリーマーケットも参加者に好評ではあったものの、担い手の負担感が課題として残りました。

9月27日には、えにわ子育て応援隊が主催する「えにわ子育て応援フェス」の企画・運営に参画しました。子育て応援隊の幹事団体として参画し市内の子育て世帯が参加しやすい環境になるよう尽力しました。

そして、家庭教育支援チーム「えにわはぴナビネットワーク」と協働で同イベント内において「ママの休憩室」を出店しました。ママたちが交流しながら、ほっと一息つける空間をつくりました。

また、恵庭市教育委員会社会教育課と協働し、家庭教育イベント「えにわままっぷ」を11月24日に開催しました。子育て支援事業は、子育て世代のママたちによる相互支援が中心であり、市民活動へのハードルを下げ、「地域課題の解決に取り組みながら楽しく活動する」という市民活動の基本を実践する機会となりました。



開催日	イベント名	参加者
6月5日	お下がり交換会	48名
10月15日	フリーマーケット	33名
9月27日	えにわ子育て応援フェス	44名
11月24日	えにわままっぷ	61名
2月27日	フリーマーケット	28名

②シーニック

当法人は「シーニックバイウェイ北海道 支笏洞爺ニセコルート ウェルカム北海道エリア」の情報拠点として、様々な機関との情報共有や会議体へ参画したほか「えにわシーニックナイト」などの地域イベントに協力することで関係各所とのネットワークを強化しました。

2月1日には連動企画「キャンドルホルダーを作ろう」を交流スペース「まちスポ恵み野」で開催しました。（参加者34名）制作体験や家庭用ランタンの作り方配布を通じ、当日会場に来られない層を含む幅広い市民にイベントの周知と参画を促しました。

このように、多様な関係機関とのネットワーク形成と市民参画の裾野を広げる取り組みは人とまちをつなぎ、地域における連携・協働の持続的な基盤を形成するとともに、中間支援組織としての役割を確立することができました。



③ 相談業務・その他ネットワーク事業

市民や団体、企業から地域の困りごとや課題に対して寄り添い、地域が成長するためのサイクルをつくるため様々な会議体への参加や機関訪問を行いました。コーディネートを通じて多様な主体をつなぎ、地域資源を活かした協働事業へ発展するケースも増加しています。

立場や分野を超えて安心して対話できる場を継続的に生み出したことは、関係人口の拡大につながる成果といえます。

今年度は北海道NPOファンドより、休眠預金等活用法助成事業「親サポ×就労プロジェクト 子どもと親のサステナブルサポート～不登校児の親の孤立・孤独を防ぐ持続可能な就労サポート～」のプロジェクトオフィサー業務を受託し、実行団体の伴走支援を実施しました。

今後も行政、学校、企業、市民団体、大学等との連携を強化し、地域課題を単独で抱え込まない仕組みづくりを進めていきます。

人材育成及び研修に関わる事業

① 講座開催

孤独・孤立対策の担い手育成を目的に、赤い羽根で知られる中央共同募金会の助成制度を活用した「つながりワーカー養成講座」を5月から11月まで月1回、全7回実施しました。そのうち1回は市外からの依頼による出張開催でした。恵庭市を中心に近隣地域からも参加があり、地域活動・福祉・教育・市民活動などに関わる中学生から高齢者まで多様な立場の参加者が集まり、修了生は64名います。孤独・孤立の背景を知り、地域でできる実践は何かを考え、学び合う場となりました。

また、修了生同士が継続的につながり合える仕組みを構築し、情報交換を通じてネットワークのさらなる拡充を図りました。地域の中で「気づき、つながり、寄り添う」人材を増やすことは、制度だけでは解決できない地域課題への重要なアプローチであり、当法人のValueのひとつである「人をつなぐ」を具体的に地域へ広げる機会となりました。

また、この孤独・孤立対策に関する取り組みについて北海道庁の取材を受け、YouTubeで広く発信されたことも大きな成果となりました。これにより地域での実践が可視化され、近隣地域や関係機関との新たな連携のきっかけにもつながりました。



つながりワーカー養成講座

	開催日	開催場所	参加人数
第1回	5月21日	交流スペース「まちスポ恵み野」	4名
第2回	6月24日	恵庭市生涯学習施設かしわのもり	5名
第3回	7月10日	緑と語らいの広場 えにあす	5名
第4回	8月29日	交流スペース「まちスポ恵み野」	5名
第5回	9月7日	交流スペース「まちスポ恵み野」	7名
第6回	10月16日	北広島市 北広島東記念館	33名
第7回	11月13日	交流スペース「まちスポ恵み野」	5名

Youtubeチャンネル「北海道公式」
「支援をしてみたいあなたへ孤独・孤立対策」



② 研修参加

当法人では、誰もが市民活動に参加しやすい環境を整え、地域課題を解決する「コーディネーター」としての質を高めるため、スタッフが自主的に外部の講座やセミナーへ参加しています。この研修を通じて得た知識やネットワークは既存事業にも良い影響をもたらし、当法人のプロジェクトを超えた成果を生み出しています。特に、中間支援組織としての講座運営や対話の場づくりのノウハウを得たことで、地域住民や団体の活動をサポートする基盤が確立されてきています。

今後はこれらの経験を活かし、スタッフのスキルを地域へ還元できるよう努めます。



第11回全国まちスポ交流会in富山



中間支援力UP 災害支援

研修参加実績

花のまちづくり関連	1件
防災関連	3件
子どもの生活支援	3件
フードバンク	1件
対話によるまちづくり	1件
その他のネットワーク	14件
広報	3件
管理	13件

③ 人材育成

2024年度から継続して実施している北海道文教大学 大学生インターンシップの受け入れやフィールドワークの受け入れなども積極的に実施し、地域づくりの担い手として育成しています。

当法人での活動をきっかけにボランティア活動に興味を持つ学生も出るなど、成果は当法人の関係機関にとどまりません。

今後も当法人のMissonでもある「若者世代へも創造体験活動のきっかけを提供すること」を大切に活動を継続して参ります。

広報活動に係る事業

広報事業

当法人のホームページや各種SNS、地域FM放送e-niwaラジオ番組「こまめちゃんねる」（毎週火曜日午前10時から10時30分放送）、紙媒体「Love Letter」（4月・10月・12月発行）を活用し、日々の活動内容の見える化に取り組みました。事業周知にとどまらず、「なぜこの活動を行うのか」「地域にどのような変化を生み出しているのか」といった背景や意義も含めて発信することで、活動への理解促進と支援者・協力者との関係構築につなげることができました。

また、ホームページ内に「ブログ」を設け、活動内容や現場の様子を定期的に発信することで、これまで接点の少なかった層にも情報が届く仕組みを整えました。

さらに、当法人は一定の公益性・運営の透明性・活動実績が認められ、国から認定を受けた認定NPO法人として寄付やサポート会員制度を通じ多様な市民参加の仕組みづくりを進めています。こうした取り組みを通じ、新たな支援者や協力者との接点形成が広がっています。

認定NPO法人まちづくりスポット恵み野へ ご寄付をありがとうございました！

2025年度にご寄付くださった 賛助会員（現サポート会員）・寄付者のみなさま

恵み野里美町内会、株式会社島田農園、恵庭花のまちづくり推進会議
株式会社e home、認定こども園幼稚舎えるむ、北海道労働金庫
株式会社メディアコム、有限会社ウェルドーミ恵庭、ラーメン 華門
株式会社あいコミ、NPO法人おはな、NPO法人きたのわ
NPO法人もったいないわ・千歳、北海道フードバンクネットワーク
一般社団法人恵庭観光協会、恵庭商工会議所
認定NPO法人 とす市民活動ネットワーク
認定NPO法人まちづくりスポット稲毛、NPO法人アクションタウンラボ
NPO法人まちづくりスポット仙台、NPO法人まちづくりスポット大津
NPO法人まちづくりスポットとやま、大和リース

他個人会員の皆様（順不同、敬称略）

賛助会員（現サポート会員） — 私たちの活動を応援、ご寄付くださる方 —

認定NPO法人まちづくりスポット恵み野の活動を継続的に応援していただくための会員制度です。継続寄付会員として当該年度末（3月）までご支援いただき、会員資格は毎年度更新となります。皆さまからのご寄附は、当法人が実施するさまざまな事業に活用させていただきます。

認定NPO法人へのご寄附は、税制上の優遇措置の対象となります。

個人の方は、確定申告を行うことで所得税や住民税の軽減を受けられる場合があります。

法人の方は、通常よりも広い範囲で寄附金を損金算入できるほか、CSR（企業の社会的責任）や地域貢献への取り組みとして社外へ発信することにもつながります。

税制上の優遇措置の詳細については、内閣府ホームページ「寄附に伴う税制上の優遇措置」をご確認ください。

サポート会員（年会費）

個人 3,000円（1口） 団体・法人 5,000円（1口）

ご入会・更新方法

窓口でお申込みする場合（現金・振込）

- ①「サポート会員申込書」に記入し、窓口にご持参いただくか、郵送・FAXにてお送りください。
（サポート会員申込書はまちスポ恵み野のWEBから取得可能です。）
- ②会費は窓口（現金のみ）または下記の口座にお振込みください。
※振込手数料は会員様、ご負担でお願い致します。

【振込先】北洋銀行 恵庭中央支店 恵み野出張所
普通預金 3996746
口座名義 認定NPO法人まちづくりスポット恵み野

オンラインでお申込みする場合（クレジット等）

- ①右記のQRコードを読み取り、必要事項をご入力ください。
- ②会費はクレジットや銀行振込等の決済が可能です。

まちづくりスポット恵み野
寄附決済システム
コングラント



QRコード



認定NPO法人
まちづくりスポット恵み野

〒061-1376

北海道恵庭市恵み野里美2-15（フレスポ恵み野内）

TEL 0123-39-2232 / FAX 0123-39-2227

Mail machispo.megumino@gmail.com

開館時間 10:00～17:00

休館日 月・木曜日、祝日、お盆、年末年始、不定休

認定NPO法人まちづくりスポット恵み野
ホームページ/各種SNS

私たちの日々の活動はこちらで発信しています！
ぜひ、フォローをお願いします。

ホーム
ページ



公式
LINE



イン
スタ
グラ
ム



フ
ェ
ィ
ス
ブ
ッ
ク



発行日 2026年7月